

グローバル研究推進校 ディベート交流会 (12/22)

1 日程

①6月18日	教員対象合同説明会 (3校参加)
②10月20日	生徒対象講習会第1回
③11月10日	生徒対象講習会第2回
④12月8日	生徒対象講習会第3回
⑤12月22日	ディベート交流会 (氷取沢高校、大磯高校)

2 内容

① 教員対象合同説明会

参加校 横浜氷取沢高校 (名) 大磯高校 (2名) 神奈川総合高校 (2名)
鶴嶺高校 (10名)

- ・スライド、動画を使用しながら説明
- ・その後、実際にディベートを参加者で行う。

[Theme] We should use social net service as a tool for communication.

○ 内容は教員対象のため、ディベートは円滑に活発に行われました。その後は進行に関すること、手順に関する事など詳細に関する質問を受け付けました。スライド資料等の共有の要請もありました。

② 第一回講習会

鶴嶺高校生 参加者 1学年 2名
2学年 6名

- ・スライドや動画で説明 (役割、手順等、生徒の一部は授業で体験済み)
- ・アイスブレイク等の活動後、ミニディベートを実施 (2グループ (1グループ4名))
教員も参加した。(他教科の参加もあり、授業への活用も考慮してもらおう)

[Theme] 1. We should take part in the club activities.

2. Homework should be abolished.

- 初対面のメンバーにもかかわらず、コミュニケーションをうまくとろうと努力をした。
- 普段よりも一段上を求められる内容に真摯に挑戦して、自信をつけていた。
- 総じて、前向きで向上心をもって臨んでいた。

③ 第2回講習会

鶴嶺高校 参加者 1学年 1名
2学年 6名

- ・スライドや動画 (ジャッジの仕方) を使い、ジャッジまでできるように説明・理解
- ・実際、8名で Government と Opposition に分かれ、ジャッジを2名担当を決めて、本番を想定して、実際に体験した。

- 実際のディベートを行う際の課題を見つけることができた。
- 自分の考えは表現できるが、相手の意見を理解し反論することが困難である。
- その際、まず自分の意見をしっかりまとめることで、反論の根拠にもつながることを伝えた。

④ 第3回講習会

- ・ディベートにつながるカードゲーム

[Theme] 1 Students should wear school uniforms.

2 Students should be allowed to use Smartphone during calsses.

- ・即興ディベート

[Theme] Students should wear uniforms.

⑤ ディベート交流会

- ・ 横浜氷取沢高校（4名）大磯高校（1名）鶴嶺高校（8名）
教員 横浜氷取沢高校（4名）大磯高校（2名）鶴嶺高校（8名）
- ・ アイスブレイクで交流を深めディベートに移る。
- ・ 学校ごとの試合でなく、合同チームでのディベートを行った。

[Theme] ① The amount of time to use the smartphone privately after school should be limited on school days.

② Students should use textbooks and other materials only in digital form at school.

○交流会の当初は、お互いを知らずに手探りであったが、アイスブレイクを通して早急に関係ができ、お互いに教えあう雰囲気は自然とつくられた。

○ ただ交流して英語を使うだけの会ではなく、反対側のチームにも敬意を払いながら、各自の意見を伝えるよう努力している姿が見られた。

○ 英語で自分の意見が相手に伝わること、反論から入り持論をスムーズに伝えられたこと、すべてが英語力向上につながった。

○ 流ちょうに英語を話すことが目標ではなく、相手にわかりやすいように感情を入れながら自分の意見を発表することができた。

○ 論理的な意見の構築は英語だけでなく日常の会話の中でも非常に効果的である。

今回の活動を通して、生徒は可能性が大いにあり、課題目標が高ければ高いほど、意欲を刺激し高められることがわかった。回を重ねるごとに、生徒の自信が伝わるようになった。また、生徒にとって楽しみながら貴重な体験ができたことは、大きな成果であった。そして、特別な場ではなく、日常の授業の中でもおおいに活用できる活動であると実感した。この活動は、ディベートだけでなく、スピーチの構成の仕方、論理の建て方等コミュニケーション活動の他の分野にも効果的であると感じる。また、日本語での論理の建て方、他教科での自分の意見の組み立てにも有効であると思ひ、広い範囲での共有も必要であると思われる。